

令和 6 年度 第 5 回 鎌倉市観光基本計画推進委員会 会議録

日 時： 令和 7 年(2025年)3 月 27 日(木) 15 時 30 分～18 時 00 分

会 場： 議員第 1 委員会室

出席者： 海津委員長、大津委員、小坂委員、湯沢委員、石山委員、横山委員(オンライン)、安部委員、  
光成委員

事務局： 市民防災部 永野部長、森次長兼観光課長、橋本課長補佐、箱崎係長、石渡職員、  
夏戸職員、平井職員

---

事務局 それでは定刻となりましたので、ただいまから第 5 回鎌倉市観光基本計画推進委員会を開催いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきます市民防災部次長兼観光課長の森と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議形式ですが、横山委員がオンライン参加で、そのほかの委員は対面でのご出席となっております。ハ雲神社の小坂委員は本日遅れての出席となります。また、橋本副委員長はご欠席となりますので、ご了承ください。それでは、議事に入る前に申し上げます。当委員会につきましては、鎌倉市観光基本計画推進委員会条例施行規則第 4 条の規定によりまして、原則公開となり、議事録につきましても公開していくことになります。ただし、委員会の決定により非公開の決定時は非公開とすることがありますが、会議及び会議録は公開とすることによってよろしいでしょうか。

委員一同 ―異議なし―

事務局 本日、傍聴者は不在であることご報告申し上げます。それでは会議の方に戻ります。会議を始める前にお手元の資料のご確認をさせていただきます。

―資料の確認―

事務局 これより次第に基づいて会議を進めさせていただきますが、本日の委員会は委員 10 名中 8 名のご出席をいただいておりますので、鎌倉市観光基本計画推進委員会条例施行規則第 3 条第 2 項の規定により会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。  
それでは議事に入ります。規則第 3 条第 1 項の規定に基づき委員長が議長とされておりますので、海津委員長に進行をお任せしたいと思います。

委員長 皆さんおはようございます。本日は 3 時間と長丁場となりますけれども、途中休憩を入れながら進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは議題 1 から入りたいと

思います。第4回委員会を振り返り、各調査の進捗報告について資料1の説明を事務局からお願いいたします。

事務局 第4回委員会の振り返り及び各種基礎調査の進捗報告として、前回の委員会で皆様からいただいた意見に対する修正及びその対応方針を整理いたしました。対応方針案の修正箇所を説明いたしますが、資料2の方も、今回のこの修正の内容に合わせて、直しております。

事務局 まず3ページ目です。第1章の基本的な考え方というページに対して、前回委員会でいただきました意見を整理しております。順番に一番上から説明させていただきます。前回の委員会の中でまず「目指すべき姿は、理想のかたちである市民と観光振興の両輪というところの表現を工夫すべき」と意見をいただき、対応方針として言葉の内容やそのワーディングを修正いたしました。また、市民視点での市民生活と観光振興の調和を、前回、目標の1つとして記載いたしました。こちらにつきましても、1つ上の概念で示すと良いのではないかという意見をいただき、反映いたしました。

2番目です。目指すべき姿を踏まえて、次の観光計画では、練り込み、観光客数を増やすことにこだわらずに、鎌倉を愛する方、そして高付加価値を求めて、地域を理解してくれる方へと客層を変えていくというような方向性で良いのかというところは、この質の転換を図っていく方針というところを記載しております。

3番目です。スマートシティ構想は、あくまでその関連する計画の1つとして記載しておりますので、ご理解いただきたく存じます。

4番目です。目指すべき姿の市民への観光振興の理解や共有、そして相互に象徴し合うところは、改めてより丁寧な表現、適切な言葉を選ぶべきではないかと意見をいただきました。また、観光と暮らしの質を大切にすることが重要であり、鎌倉の資源やブランドが当たり前ではなく、インバウンドの増加等で、これから破壊してしまいそうな今だからこそ次の計画の中では、資源やブランドを大切にすることを絡めて、市民の方も含めてわかりやすく伝える計画とすることで特徴が出るのではないかと意見をいただきました。こちらにつきましても、重要な視点であると我々も認識しており、反映できるものはワーディングを修正しております。

5番目です。観光と暮らしの質を大切にすることが重要というところは、これからの鎌倉ならではの資源やブランドの部分についてですが、重複しておりますので次に進めさせていただきます。

6番目です。計画は構成をシンプルにして、伝わりやすい構成するということは賛成です。そして今回の計画の中では、市民の方々に、いかにこの観光振興の意義を理解していただけるかがポイントであるということと、この計画期間の十年間と長く、変化が激しい時代となっている中で、柔軟性のある運用ができるかということがポイントであると意見をいただいております。こちらにつきましては、今回の修正の中で、計画の中間見直しについて明記しております。また、実施計画として、次年度にアクションプランも作成しますが、成果指標をもとに、個別の取り組みについては、年次での入れ替えということも、できるのではないかと今後検討を進めていく想

定です。

7番目、8番目は同様に、第1章の基本的な考え方について、意見をいただいております。まず、方針の部分につきまして、「地域住民と観光客の双方が地域内で錯綜することなく」と、キーワードがありましたが、少しネガティブなニュアンスを含んでいるというところについては、削除し調整すべきなのではないかという意見をいただいておりますので、対応方針として修正をしております。8番目の基本理念、目標についても、課題解決型の表現となっております。どのような観光を目指すのかというところがまだ少し問いかけきれていないという意見をいただいております。またその市民ワークショップでいただいた意見も踏まえて、表現の検討を進めていただきたいという意見がありました。後ほどワークショップの結果も、お示しいたしますが、言葉の部分は調整しております。

9～11番目が、第2章現状分析のページの修正でございます。こちらについてはまとめて共有しますがSWOT分析の中身について、うまくカテゴリーが分けられていない、表現方法、抜け漏れがあるのではないかとご指摘がありました。改めてSWOT分析の中身について、今回改めて内容の入れ替えや並び替え、そして言葉言い回しを調整しております。

12番目以降、3章の中の施策の体系の部分について、意見をいただいております。まず鎌倉サポートの12番目は、鎌倉のサポーターを増やす意図がわかりにくい、また、「郷土愛の醸成」について、鎌倉はシビックプライドが高く、あえて明記する必要はないのではないかという意見をいただいております。郷土愛の部分については、いただいた意見のとおり上位の概念として整理をしていくということで、一旦この施策体系の中から言葉として外しております。

13番目は、誰もが快適に過ごせる受入環境の整備ということで、安心安全に観光するということがありましたけれども、防災やバリアフリー、そしてユニバーサルデザインのような要素が抜けているように見えるという、ご指摘をいただいております。こちらにつきましては次の計画でも重要な取り組みとして考えていくべきであると、事務局でも認識をしております。一旦今回は、防災が施策分野の中の言葉として表現はありませんが、個別の取り組みの中で防災に関する取り組みを検討し、記載していくと整理をさせていただいております。

14番目は、周辺高速道路の計画を見越した記載が必要というところです。こちらはSWOT分析の中でも追求させていただいております。人材育成や連携体制づくりは、市内だけではなく、市外の観光地との協力や、国内外の歴史観光都市等との協力については、今年度の段階では具体的な取り組みや連携をしていこうという方針は立っていないものの、引き続き可能性も含めて検討させていただくことと整理をしております。

16番目です。宿泊や観光DXについて意見をいただいておりますが、施策分野の単位では具体的に書き込めませんが、同様に個別の取り組みについて次年度以降、検討していくところで、当然この意見は受け止めて、次年度以降検討していくことで申し送り事項として、整理をしております。

17番目です。民泊で地域住民の方が迷惑をしているとか、トラブルが起これそうという内容について、条例による規制の視野を入れていくべきだというような意見をいただいております。こ

ちらも今年度の段階で、議論をできる段階ではなく、次年度に申し送り事項として整理しております。

18 番目です。鎌倉にふさわしい観光コンテンツの整備充実や着地型観光について、着地型観光というワーディングが鎌倉としてふさわしいのかというような意見もいただいております。こちらはワーディングの方を修正しております。ただ、着地型観光という点については、今回の段階では言葉を変えずに残しておりますが、次年度以降、鎌倉にふさわしい言葉を考えていこうと整理しております。

19 番目です。KPI について議論が及んでおりました。次年度、中身については検討するというスケジュールで、当初から想定しておりましたので、意見として受け止め、次年度に具体的に検討を進めていければと思っております。

20 番目です。トイレについて意見をいただいております。当日の委員会の中でも、回答として周辺店舗に協力店制度を設けて、取り組んでいることは情報提供いただいております。

21 番目です。こちら公衆トイレが足りていないというところ。現在、鎌倉市として取り組んでいる内容については、当日説明をさせていただいております。それ以外の不足している部分は次の計画の中でも取り組んでいくべき内容として検討を進めていくというかたちで整理しております。

22 番目です。鎌倉サポーターを増やすことに違和感がある。当初は人材育成連携や体制づくりの方に入れていくべき内容ではないかと意見をいただいております。こちら紐づく目標の並び替えをしております。

23 番目です。成熟した観光都市というところは賛成だが、この部分にサステナビリティの視点が良かった方がよいというところについて、その持続的な観光まちづくりに向けて体制づくりという視点も入れたものにすべきというところで、持続可能というところにつきましては、今回、新たに追加及び修正しております。

24 番目です。歩いて楽しめる観光について、「泊まる観光」と同じように施策として考えていくべき内容ではないかというところで意見をいただいております。こちらについて、歩く観光も施策分野の中に一旦戻したものの、今回整理をしていく中で、分散型観光の中に、「歩いて楽しめる観光」というところも振り分けられるのではないかと考え、反映をさせずに整理しております。個別の取り組みの中で、「歩いて楽しめる観光」を検討していく内容だと思いますので、次年度以降、この内容がよりわかるようなかたちで施策体系図の方に落とし込むことができると想定しております。

25 番目です。泊まる観光の推進については、稼働率の実態も見ながら、現状の強み弱みの整理が必要という意見をいただいています。市内の宿泊事業者様向けのアンケートの回答から利用状況を現在調べております。そちらの内容が上がってきたらご紹介できると想定しております。

26 番目です。全体に及ぼす内容としてご紹介いたします。意見をいただいた中で特に市民と住民の使い分けや、オーバーツーリズム対策として分散型観光を推進していくのであれば、混

雑地区の住民だけでなく、鎌倉市民全体の話となるので、市民というキーワードの方が基本的には良いのではないかという意見を踏まえて、今回の修正の中では、基本的に市民に表現の方を統一しております。

以上、第4回でいただきました委員会での主な意見と対応案として修正しております。資料2を説明する中でも確認いただければと思います。

事務局 次に、各種基礎調査の進捗報告としてまだご紹介できてなかった市民ワークショップでいただいた意見をご紹介します。

8 ページ目はこの検討の中で想定しているワークショップのうち、今回は全体の部ということで、市民の皆様幅広く集まっていたいて開催するワークショップを実施しました。

当日の様子及びプログラムは9ページ目でご確認ください。30名弱の方にお集まりいただき、スケジュールのとおり2つのテーマについてディスカッションをさせていただきました。

まず、テーマ1として、皆さんが思う鎌倉の魅力や良いと思うところを参加いただいた市民の方にアイデアを出していただきました。テーマ2として、テーマ1のアイデア出しが終わった後に、良いと思う資源やコンテンツについて、どういう打ち手が考えられるのか、逆にどういうものが今ボトルネックの課題となっているのか、より高めていくために必要なことについて意見を募りました。以上の内容を当日ディスカッションしました。

11 ページ目から12 ページ目は3班にわかれて実施した内容となります。

当日、その中から出てきた意見をキーワードごとにグルーピングして、関係相関図のようなまとめ方をしております。資料は当日模造紙に付箋を貼っていただいて整理したものを、パワーポイントに起こしたものとします。その中で緑色は課題を記載しており、それに対する打ち手を矢印のいく先で整理しております。

テーマ2について、さらに魅力を高めるためにどういうことをやっていくべきなのかとしていただいた意見をまとめている内容です。各案ともに幅広に意見が出ており、整理した内容は13ページにございます。市民ワークショップで市民の皆様からいただいた意見のうち、今回は骨子作成というところの視点でヒントとなるような情報を抜粋して整理しております。

まず、第1章の「基本的な考え方」において、ヒントになるような情報としてはこの成熟した観光都市を目指すというところがございます。引き続き検討していく重要なポイントであるという意見、またその住民と観光客が共存できるような観光都市を目指していくという我々が想定しているところについても、同様に意見をいただけたと思っております。

次に、第2章「現状と課題」における鎌倉市の魅力的なものや強みは何かということについて、自然の豊かさが育んだ観光資源、風景・景色、そしてそれらを含めて醸し出す空気感であるということを市民の方から意見をいただきました。歴史と自然と歴史の重なりでできたこのまち並みや人々の生活自体が魅力であるというところ、またその中でこの歴史が重なり合って、生まれてきた精神性、空気感ともリンクするポイントとどのような意見を市民の方からいただきました。

一方で、弱みとして、市民への周知が足りていないところで、市民が観光による恩恵を受けていることを知ってもらう必要があるところ、また魅力の情報発信が限定的で、例えば、イベントの周知も不十分というような意見がいただきました。

また、2点目としまして、市民と観光客双方に関する課題として、当然ながらオーバーツーリズムの解消をしていく必要があることや、市民も含めて移動手段がなく、道が混雑するということも含めて、意見いただきました。

3点目として、観光客の課題として、コンテンツは豊富であるものの、なかなか情報がまとまっているサイトが現状ないというところ、日帰り客が多く観光消費額が低いというところを意見としていただいております。精神性や空気感、そしてバラエティーに富んだ観光資源を再構築して魅力を高めていこうというところ、そしてまた再構築というところをキーワードとしていただいていると思っております。

4点目として、施策体系は、先ほどの弱みに対する課題の解決について、まず市民へ周知していく内容として、住民と観光客が一緒に楽しめるコンテンツ作りに取り組んでいくべきなのではないか、また、市民が持っている観光に関する地域の魅力を発信するような機会を作るためにDXを活用してプラットフォームを作るなどの具体的な意見をいただきました。

市民、観光客双方に関する課題としましては、観光客が集中するところに対して、分散化に向けた取り組みを行っていくべきなのではないかと、市民から意見としていただいております。

また、もう一歩足を伸ばせる交通手段の周知がございました。江ノ島電鉄やバス以外に交通手段としていくつかありますので、効果的に周知してうまく使ってもらおうというのも1つ案なのではないかというのを意見としていただいております。最後に、観光客の課題として、観光ガイドの充実がございます。ホームページをより充実させ、また日帰り客を宿泊客に変えることで、消費額を上げる、そして税収を上げるというところを目指していくべきではないかという意見をいただいております。以上が市民のワークショップでいただいた意見です。

以上の内容を踏まえまして、15ページ目です。今年度に取り組んだ調査の報告ですが、基本的に今年度に想定をしていた骨子作成用に水色で示している調査はおよそすべて完了しました。この中で、改めて現行の計画から次期第四期の計画でも継続して取り組んでいくべき課題、そして今回の計画でより注力して取り組んでいくべき課題というところをまとめております。そちらを踏まえた上で、計画の策定を進めていることを改めて提示しております。こちらを踏まえて修正した内容を資料2で後ほど説明いたします。

16ページ目及び17ページ目は、各種骨子作成用の基礎調査を踏まえた中で、出てきました鎌倉市の観光における現状と課題を分析しております。強みと弱み、そして機会と脅威と、この4象限にまとめて整理した内容です。こちらの内容は前回の委員会の中でも提示しておりますので詳細は割愛させていただきます。

17ページ目です。こちらの4象限の掛け算によって、次期観光基本計画の方向性の振り返りと目標を整理したスライドです。まず、次期計画の方向性は、左上にまとめている部分をご確認ください。鎌倉らしさを際立たせた計画として、今回の計画の中では、市民と観光客の共生のも

とに鎌倉ならではの観光振興に取り組むことが鎌倉らしさであると我々は考えております。その中で、鎌倉市の観光の現状の整理から引き続き、現行の計画、残された課題として受入環境の整備、そして人材育成の連携体制づくりを強化していくことを継続して取り組んでいくべき課題である、そして今回の計画で注力していくべき課題として、観光振興による地域の豊かさを市民、そして観光客の方により理解いただく、共有してもらうというところと鎌倉のこのバラエティー溢れる観光のコンテンツを再構築していく中で、より魅力的にして、充実させていくというところを重視した計画として取り組む方向性としております。

少し長くなりましたけれども、資料Ⅰの説明としては以上です。

委員長 大きくは前回の意見の提示をいただいたということと、あと市民ワークショップⅠ回目のものから出てきたキーワード、それからSWOT分析の修正案の再提示と3つ要素があったと思います。資料Ⅰについて、皆さまから意見、あるいは修正点といただきたいと思います。まず、前回の振り返りのところで何かお気づきの点がありましたら、伺っていければと思いますが、いかがでしょうか。

委員 市民ワークショップについてお疲れ様でした。集客方法やどのような世代、ご職業の方から意見を聞いたのか提示いただけると嬉しいと思いました。また、結果の状況はすごく面白く、地元の方ならではのポイントがあることがわかりましたので、参考資料として入れていただけるとよいと思いました。

鎌倉と言えば歴史文化資源が豊かで自然と調和がとれていることが魅力的であることを住民が認識していることが分かり、面白いと思いました。観光の計画に入れづらい部分もありますが、歴史文化遺産のほかに自然環境があるような感じで、個別のものとして扱っているような表現が散見されるため、ワークショップの意見を踏まえて表現の仕方や施策のチェックができると良いと思いました。あとは、精神性の部分や食の魅力が出てきていて、今回うまく入れられていると思います。この市民の方から出た具体的な表現は、固有名詞は良くないかもしれませんが、うまく計画の表現に活かしていけると良いなと思います。楽しく拝見しました。実施は大変だったと思いますが、ありがとうございました。

委員長 開催方法についてご質問ありましたので、ご回答をお願いします。

事務局 年代については幅広く、各班バランスよく年代、男女を配置できるよう事務局で調整しました。

委員 市民ワークショップについて、私も参加しており、50代以降の方が多いただろうと私は想像しておりました。お若い方も参加されて、非常に私は刺激を受けましたし、フラットな会話の中で意外性もありました。意外性と申しますのは、私は鎌倉市の住民ですので、日常的な環境として寺社仏閣の中で過ごしておりました。どちらかというとメリットにあやかれない立場だという認

識で臨みましたが、皆さんとても穏やかな方が多かったです。今回のテーマ自体がとてもソフトであったため、今後もう少しテーマを絞り込んでいくとリアルな感覚が浮き彫りになるのではと思いました。初対面の方同士、あまりネガティブなことは言いたくないと推察される中で、一時間ぐらい話し、集まった意見がこの内容だと思います。私もその中で、鎌倉市がゴミのリサイクルを日本で一番頑張っていると若い方から教えていただき収穫がありました。ぜひビジネスの色気がなく、住民がフラットに参加できるようになれば、もっといろんな感覚や気持ちが出てくるのではないかと思います。期待しています。以上です。

委員長   ありがとうございました。雰囲気をお伝えいただいたかなと思います。他の方いかがでしょうか。

委 員   ワークショップの中で市民と住民というワードがあります。13 ページのまとめとして、住民と観光客が共存できるようになっていると思いますが、これは結果的に住民の方が良いという認識になったということでしょうか。

事務局   こちらは我々の方で言葉を丸めずに、一旦いただいた言葉をそのまま記載しております。市民と住民との整合が取れていないことをご認識いただければと思います。計画の中では市民でまとめしていくというところは合意しているものの、今回のワークショップの中では、その場で発言いただいた内容で整理しています。

委 員   班は3班ありましたが、A班の方が市民と使っていて、B班の方が住民と使っていて、C班の方が市民と使っていますが、特に切り分けていない認識で問題ないでしょうか。

事務局   計画の中で使っている言葉の定義はお伝えせずに、幅広く意見をいただきました。

委 員   13 ページ2 番のオーバーツーリズムの課題について、このようなワークショップだと、観光客が加害者で、市民が被害者っていうような捉え方になりやすいと思っております。しかし、市民と観光客双方に関する課題に入っているということは、市民、観光客の両方に対して何かする必要があるという意味で問題ないでしょうか。

事務局   当日の進め方としまして、あまりネガティブな発言をしてしまうと、課題やネガティブなことに對する議論に進んでしまうので、ワークショップのルールの大前提として、ネガティブなことは極力言わないようにしてほしいと伝えていました。しかし、魅力を高めていくためにはオーバーツーリズムがボトルネックであり、解消しないことには良さも伸びないという意見がありました。今回のワークショップでは、観光に対して、理解のある、何か協力したいと思っていただいている市民の方が、お集まりいただいたところが前提としてあるので、市民と観光客双方に関する課題というところにまとめております。



委員長 市民の意見を拝見して、非常に言葉が柔らかく、カタカナ言葉がなく、鎌倉の捉え方が、全体的に和語で表現されるものと感じました。また、13 ページ表の一番上のところにある成熟した観光都市を目指すというところは重要であると思いました。市民からもこの言葉が出てきており、理念の中に使うべきキーワードなのではないかと感じました。出てきている言葉を大事にしながら、本計画の中の文言に活用できればなと思いました。

事務局 このような課題において、何を目指していくのか必要なキーワードであると皆様理解していたようです。

委員長 次に、SWOT分析のところについて何かコメント、意見がありましたらご発言お願いいたします。

委員 オーバーツーリズムがインバウンドの増加によるものと限定しているが、その表現で問題ないでしょうか。

事務局 オーバーツーリズムによる課題が発生している点について、インバウンドの増加に限った話ではないと考えております。

委員 プラスアルファでさらにインバウンドが増えていることを最終的にうまくまとめられたらと思います。

事務局 ただいまの意見につきましては、インバウンドだけに特化してオーバーツーリズムを発生するというような表現を修正したいと思います。

委員 インバウンド観光の増加というところで、他府県では仏像の盗難やひどい落書きがあるとニュースで見ました。鎌倉市内で困っている事例はありますでしょうか。

事務局 鎌倉市の事例を申し上げます。ニュース報道であるように他市町村で見られるような特異な事例はありませんが、鎌倉市では、例えば小町通り、長谷駅、鎌倉高校前等で人が多くなっていることで、オーバーツーリズムが発生する状態があります。ゴミのポイ捨てや敷地への無断侵入、大声で叫ぶ、小町通りでの食べ歩き等がありますが、中でもひどいものとしては敷地内に入って排泄をしたという事例があります。お寺や仏像への落書き等はありません。

委員長 起因という言葉が、すべてがインバウンドから来ているというようにみえてしまうところがあると思います。言葉の使い方を工夫したら良いと思いました。また、インバウンド観光の増加は、日本語としておかしいです。増加するのは観光客で、観光は現象のため工夫いただければと思い

ます。

事務局 用語の使い方については注意いたします。

委員 訪日観光客も 2 つの言葉が混在しているので、統一した方が良いと思います。起因したという言葉は説明が非常に難しいところですので、使用しない方が良いと思います。内部環境の弱みで負のイメージによる国内客の減少とあるがそれだけではないと思います。鎌倉のイメージに相応しくない外資が入り、鎌倉が大事にしてきたものが見えないことの方が、より鎌倉ブランドの脅威としては大きいと思います。表現は慎重に整理できればと思います。PPT で提示されると判断し辛いので、データとセットで示していただけると判断しやすいと思います。

外部環境脅威の 1 つ目にオーバーツーリズムの記載がありますが内部環境の弱みの 3 つ目に「来訪者の季節・時間・地域的な偏りが強く」と、鎌倉における具体的な問題がとてもわかりやすく書いてあり、外部環境のオーバーツーリズムは削除しても良いと思います。むしろ外部環境の 2 つ目の負の感情を持つ市民が、増えているに対して充分に対応できていないところが問題であり、書き分けると良いと思います。

明治以降の新しい文化の発信地として二時代の魅力があるという記載について、二時代という言葉は不思議な言い方だなと思います。鎌倉の仮想的な蓄積された魅力が明治以降あるため、2 つに区切るというのは、逆にもったいないのかなと思います。

事務局 オーバーツーリズムについて、改めて整理します。

委員 「歴史以外に」という表現は良くないと思います。住民の方のワークショップでも「自然が育んだ歴史の」とか、「歴史の重なり」と記載があるためそのように書いた方が良いと思います。

事務局 鎌倉市は歴史的文化的遺産だけでなく、歴史的風土が織り成す鎌倉の魅力があります。事務局として歴史、自然、緑を分けるのではなく、鎌倉は様々な魅力がモザイク画のように組み合わせられたまちが描くような魅力ある町ということで捉えたいと思います。

委員長 外部環境の機会について、テーマ性を持った、よりディープでローカル志向な観光ニーズという言葉が出ていますが、意味を理解できないため概要を記載した方が良いと思います。SWOT 分析について、17 ページ目に図を展開していますが、上と下で言葉が違うようですので、最後に精査して統一した方が良いと思います。

委員 16 ページの脅威について、世界情勢の変化による円高の是正、原油高、新たなパンデミック、訪日外国人の激減とありますが、円安になっても原油高になってインバウンドの数は減少して

おりません。外部環境やシステム、政治状況という表現の方が、整合性がとれると感じました。

事務局 こちらの言葉の使い方は注意して精査していきたいと思います。

～休憩～

委員長 次期計画の方針案修正案についてご説明をお願いいたします。

事務局 それでは資料 2 について、事務局から説明させていただきます。

第 1 章は計画の位置づけ及び基本的な考え方となります。

第 2 章は SWOT 分析を導出するにあたり収集したデータというところを取りまとめた結果であり、次の素案をお示しする段階までには整理して提示できればと思っております。

3 章は施策体系です。基本理念から紐づく目標、施策分野、個別の取り組みがわかるように一覧化した表と、各目標がどのような意図を持って取り組んでいくのかという解説がついているものを用意しております。

4 章は実施推進体制として、この計画における実施推進するための体制づくりについて言及したものをまとめていくという想定です。

この実施計画では、重点施策と取り組み施策の詳細を取りまとめたアクションプランを作ります。後半につながる内容は、次年度に中身の作り込みをするため、本日は用意しておりません。

事務局 第 1 章は基本計画の位置づけの内容です。こちらは現行の第 3 期計画と同様に計画策定の背景、目的、計画の位置づけ、そして計画期間について解説する構成とします。まず、背景の目的は、第 3 期の計画の中で市長のコメントを取りまとめて掲載しており、次期計画においても同様の構成にしたいと考えております。鎌倉市の観光として、これから打ち出していく方向性やその空気感、精神性が鎌倉らしさというところをうまく取りまとめて掲載します。この計画を取りまとめていく中で、計画策定の趣旨を含めて次年度作成していく想定です。

次に、計画の位置づけです。現行の第 3 期計画と計画の位置づけとしては、基本的に変更はありません。その中で、個別計画との整合性や連携を進めながら、新しい観光計画の位置づけとして取りまとめていく想定です。計画期間は、令和 8 年度から令和 17 年度までの 10 年間です。

また、評価手法の検証を踏まえた計画期間の中間見直しの実施を記載する予定です。

本計画の基本的な考え方について、目指すべき姿、そして計画期間中に、前半の五年間、後半の五年間で特に重点的に取り組むべき事項をまとめております。

まず、「住んでよかった、訪れてよかった」まち、鎌倉」を基本理念として仮置きしております。この「住んでよかった、訪れてよかった」とは、観光振興が調和をして、市民と観光客、両者にとって魅力ある観光都市として、さらなる発展成長を目指すべき姿です。なぜ過去形なのかと事前

に質問いただいておりますが、過去形として示しているというよりも訪れた時によかったと感じたイメージをキーワードとしてまとめております。

市民と観光客の共生とは、前回の委員会で、委員の皆様を確認いただいた内容となります。行政主導のもと市民と観光客が相互により尊重し合えるような関係性になり、良かったと思える街をより高めていくことが目指すべき姿というところ です。実現した時に、この市民と観光客に対して重点的に取り組む事項としてお示ししたのが十年間のロードマップです。

今回の計画の中で、施策体系において様々な取り組みを実施しますが、より重点的に取り組むものを前半五年に、そして後半五年で目指していくべきところをまとめております。

前期の取り組みである市民観光客については、観光振興が実現した中で地域がどうやって豊かになるのかというところをより実感や共有いただくように重点的に取り組むべきと事務局として考えております。

後期の重点的な取り組みは、鎌倉サポーターを増やすためのコンテンツや体制づくりです。

まず、市民や観光客も含めて、観光振興の意義を理解いただかないことには、鎌倉サポーターとして協力いただく人材を増やすことにつながらないため、前期より地域の豊かさの共有が進んだ中で、後期から具体的に鎌倉サポーターを増やしていくために取り組みたいと考えております。

年次評価として今回の目標指標である KPI に基づいて、年次で進捗管理や評価検証を実施していこうと考えております。また世の中の情勢や、鎌倉市の観光の現場の状況に応じてブラッシュアップをしていくようなかたちで中間見直しを検討しております。

事務局 第 2 章は、資料 1 の SWOT 分析で説明した内容のため、割愛いたします。

次は第 3 章の施策体系です。この各目標は、前述の SWOT 分析の結果から導出した目標です。次期計画の方向性は、資料 1 の SWOT 分析で説明しました内容と同様です。

目標を導出するにあたり地域の皆様のワークショップ、地域の事業者様へのヒアリング、アンケートを実施した中でいただいた課題や、次の計画で注力してほしい意見から、目標を導出しています。目標をまとめた時に、基本理念が出てくるであろうという考え方のもと、事務局として作業を進めております。

今年度の段階としては、一旦仮置きで、この「住んでよかった、訪れてよかった」まち鎌倉」と書いております。しかし、決してこれが確定という訳ではなく、委員の皆様にごさわしい言葉についてぜひ意見をいただきたいと思っております。

今説明した基本理念と目標に紐づく箇所を緑色で示しています。濃い緑と薄い緑で示しておりますが、現段階で事務局としてより注力して取り組むべきと考えているものを濃い緑としております。ただし、こちらは事務局として検討したものととなりますので、一旦仮置きとしてご認識ください。色の濃淡についても委員会や来年度以降検討していく中で変更する可能性はあります。

7 ページ目は、現行の第 3 期計画を比較できるように掲載しております。

最後に 8 ページ目と 9 ページ目について、骨子案を作成するにあたって、より専門的な用語というのが今後増えていくと想定し、テクニカルなキーワードについて解説を掲載しております。

事務局 第 4 章の実施推進体制は、次年度本格的に改革を推進するにあたって、ふさわしい体制を議論していこうというところです。資料 2 の説明は以上となります。

委員 観光振興による地域の豊かさの共有にあたり、税収の増加や、雇用の増加は明示できるものでしょうか。

事務局 6 ページをご覧ください。地域の豊かさを共有するにあたっては、濃い緑と薄い緑と 4 つの目標があります。この施策を通して、豊かさが共有できるようなことを図っていきたいと考えています。

委員 個別の取り組みなどの説明があれば、市民の方の理解が進むと思います。

委員 参考事例を紹介します。京都は、観光客は量が必要という考えでしたが、現在は質が大事という思考です。コロナ以前にオーバーツーリズムが問題になった時、住民生活との調和が大事という方針に切り替えました。その過程でコロナ禍となり、時間ができたこともあって、市民に、観光は宿泊業等における産業だけではなく、住民が生活に利用している産業や店の関わりがあること、宿泊税があるため電線地中化等の景観整備に活かされていることや地震対策等を共有できる機会がありました。

交通インフラの制度について、京都は観光客も多く交通の選択肢も増えますが、同時に課題もあり、制度との影響を非常にわかりやすく、調査等に基づいて実施しています。豊かさを共有することで、啓発活動に見えてしまうことを懸念しておりましたが、現在は検討を重ねる期間と認識しました。京都等の先進的な取り組みを参考にしながら、鎌倉で多角的にできることはあると思います。

事務局 現在、他観光地での事例を研究しております。先ほどの施策分野の中でもご説明したとおり、10 年間のロードマップの中で前期に重点な取り組みを実施し、観光客は鎌倉の観光に寄与している、害ではなくメリットのある存在だということで実際の議論と体系の仕組みや実益は前半の部分でやっていきたいと考えております。

委員長 地域の豊かさがありますが、地域はどのぐらい広げて考えるべきか、豊かさをどのように解釈するかが必要だと思います。事例も踏まえて研究いただきながら、検討していただければと思います。話が変わりますが、6 ページの施策や意義の理解促進は分野や理解促進というよりも、意義の提示の方が施策としてはふさわしいと思います。

委員 「「住んでよかった、訪れてよかった」まち鎌倉」とありますが、この「まち」をあえてひらがなにしたのは意味があると考えております。市民と観光客の共生が、右と左をつなぐ格子点だと考

えるのであれば、右が観光の魅力向上、左は観光と地域の調和という風にするのは少しおかしいと思います。市民がこの鎌倉市で暮らしやすい街と捉えるワードが、もう少し打診されても良いと思います。

事務局 鎌倉市としては、市民と観光客はどちらも主役であると考えております。お互いが主役で住みやすい街を考えた場合、市民と観光客の共生はご指摘のとおりです。

左側が市民、観光客に対する上の冠の言葉が観光の業務に偏っているため、もう少しふさわしいワーディングを検討していきたいと思います。

委員 特に市民の輪の中の自らが地域に貢献し実感という言葉とか、観光と地域の調和の実現という言葉に違和感があります。

また、施策について、観光の推進や観光資源の保全の情報発信がありますが、誰がどのタイミングで進めていくのかがわかりません。

事務局 まず、施策効果における個別の取り組みは、今後のアクションプランとなります。

次に、アクションプランの実施者については、行政だけでなく鎌倉は広く観光に携わるものすべてが取り組みをしないと知識の確保ができないと考えております。新たな取り組み体制として、今後アクションプランの実施とそれに対する評価ということで観光基本計画推進委員会において評価の実施等で施行管理を図っていきたいと考えております。また、ご指摘のとおり、今年度は具体的に何をするのか掲載できておりません。次年度の素案を作る段階で内容を落とし込み、お示ししていきます。

取り組みは、鎌倉市として取り組むことと、地域の事業者様にご協力いただいて一緒に取り組むものと、地域の事業者様が独自に取り組まれるものと 3 つあると思います。この行政の計画の中で、民間企業が主となって取り組まれるような取り組みについて、KPI でコントロールすることはおそらく難しくなってくると思います。計画の中でも進捗を管理していくことは、市が主体となって取り組むことが前提となります。

ただ、それ以外に民間の事業者と協力して進めていくこと体制を作ることが、3 つ目の柱である連携体制の部分に落とし込まれてくるため、次年度にうまく取りまとめていければと思っています。

委員 携わった当初から観光振興という言葉に違和感があります。鎌倉の場合は観光客の増加を負わない、いわゆる観光振興は行わないということが不文律としてあると認識していました。コロナ禍を経て、今も変わっていないと思います。ロードマップの中に観光振興による地域の豊かさの共有という言葉がありますが、鎌倉の場合はすべて質の観光を求めなければいけないという視点から見ると、観光振興という言葉はいわゆる観光の質の振興ということだと思います。今後進めていくうちに資料を読んだ方が混乱しないように、観光の質の振興という言葉をとくさん

使った方が良いのではないのかと懸念を持っております。

鎌倉サポーターについても違和感があります。鎌倉サポーターを増やしてから、コンテンツの構築はハードルが高いと思います。緩やかに鎌倉ファンを増やす視点の方が良いと思います。

事務局 観光振興における量から質への転換は、ご指摘のとおりです。

第3期の取り組みでもありましたが、今後鎌倉市はより質の高い観光客を増やしていくべきだという理念をガイド等でわかるようにしていくべきであり、どこで掲載ができるか検討します。

鎌倉サポーターはレスポンスツーリズムの視点を持ち、鎌倉に貢献している人を想定しております。鎌倉に来た時に、市民の方に負担ではなく、何か恩恵をもたらしていただくような方が来ていただきたいという思いで、鎌倉サポーターという言葉で使用しております。

事務局 補足になりますが、ふるさと納税やクラウドファンディングで応援してくださる方がかなりいます。

鎌倉サポーターは上記の金銭的な部分も含めた応援者やサポーターというイメージで、他地域の事例を研究しているところです。例えばサポーターになって会費を払うとホテル宿泊券がついているとか、ふるさと納税のような返礼品ではないが、何か特典があるっていうようなことも含めて研究しています。ファンクラブではないが会員になっていただくような組織的なサポーターになっていただくイメージを持っております。

また質の向上などでも観光振興はたくさんあるため、もう一度見直しをさせていただいて、振興して観光客を増やしていくとミスリードされない表現の仕方を研究したいと思います。

委員長 確かに振興は、数値や量を端的に示すと受け取られがちなので、鎌倉の現状に照らすと「観光の質的向上」や「観光による地域価値の創出」などへの言い換えが望ましいように思います。

先ほど、観光客と市民の方で取りまとめたものが対応する言葉になっていないと指摘がありました。地域に住む誇りの向上や市民の目線で見た時に観光が関わっていることで、生活環境の向上などが実現し、“住んでいてよかった”につながるような言葉を用いた方が良いと思います。

委員 観光振興について、市民生活と観光振興の調和というより、暮らしと観光の維持ができるという言葉の方が合うと思います。また、振興という言葉を取ると、図における主語が変わると思います。図の矢印と順番も人や地域によっても違うと思います。

鎌倉サポーターについては、定義を確認したところ趣味も入っていたため、分けた方が良いと思います。鎌倉サポーターについて先ほどの議論よりサポーターではなく、関係人口ではないかと考えております。関係人口とは、新しい概念ではありますが、ある特定の地域について思いを持った人が、自分なりに様々なかたちで地域を応援する、行動するようなことという定義が総務省のホームページに掲載されています。鎌倉にとってどのような位置付けとするか言語化するとわかりやすいと思いました。

事務局 観光振興について、事務局であえて使用しているキーワードとなります。観光振興によってまた

らされる事項として、市への経済効果と知名度としての社会効果があると考えております。  
鎌倉サポーターに関して、確かに端的に言う関係人口という言葉でも良いのかもしれませんが、まさにそこを指すわけだと思います。今よく使われる言葉を掲載すると、無機質なものと感じたため、あえて鎌倉サポーターという言葉にさせていただいておりました。

委員 豊かさの共有について、手段から理解を得るなどの言葉のニュアンスを入れた方が、施策に落ちる時に一段階進んだ施策に繋がると思います。  
鎌倉サポーターの件や観光振興について、一度持ち帰っていただいて、事業側からある程度意思を持った意見があると良い議論になる気がします。今回良かった点は、施策分野に濃淡をつけたことでわかりやすくなった点だと思います。やはり優先順位がないと興味がない人は見てもわからないと思います。

事務局 まず、目標の説明については、あえて具体的な文言を除いて抽象的な文章として取りまとめています。

6 ページ目施策分野の並び順の優先度について、一点説明を失念しておりました。

目標の 1 から 4 の順番、そしてSWOT分析の並び順は、上に行くほど、前半に優先して取り組んでいくべきことを並べております。各柱の目標の中で、特に重点的に取り組むものを濃い緑色をつけています。

鎌倉サポーターについては事務局の中で議論をしており、サポーターはファンではないという話があった中で、あえてサポーターというキーワードを入れています。この鎌倉は他の地域とは違う熱量で取り組めるような人たちを集められるような場があると、サポーターというキーワードでまとめました。今回まとめた時にチャレンジングという意見もありましたが、その姿勢が大事なのではないかとこのころでサポーターという言葉を使っていることを補足させていただきます。

4 ページ目の目指すべき姿のリング部分を、作業側側の意図として回答させていただきます。  
観光の魅力向上と観光と地域との調和で、観光客と市民でまとめた標語が、対になっていないというご指摘がありましたので、修正をさせていただきます。

左側の市民にとって取りまとめた言葉が鎌倉市としてまちづくりにおいて目指す姿にリンクしてくる場になるのかなと作業側としては考えております。整合を取りながら、対となるように次の委員会までにもう一度練り直したいと思います。

事務局 総合計画と異なり、こちらは観光計画ですので、市民にとっての観光という視点でまとめさせていただきます。

委員長 総合計画は現在パブリックコメント中ですので、皆様ご覧いただければと思います。



委員 関係人口についてはこだわりがある訳ではありません。サポーターというキーワードを使うことは、鎌倉の特徴らしい趣旨と理解しました。

委員長 議論でたくさんの意見がありましたので一度整理します。

4 ページ左側について、市民と観光客の共生ということを表すには、対置できる図でないとおかしいということ、あと矢印で順番を示しているように見えるけれども必ずしもその限りではないということ、また内容についても、ここに入るべきものなのかどうかも含めてご検討いただくということになりました。

併せて総合計画も反映して、特に市民の目線のところは、見直すということになりました。

次に、観光振興による地域の豊かさの共有というところの振興という言葉は、鎌倉市の観光の振興ということ自体が実態を表しておらず、望む方向ではないということもあるので両方の使い方を見直すこと、地域はどこまでの範囲なのか、豊かさを明確にする必要があるということがありました。

さらに、鎌倉サポーターの意味合いを議論して、意図は理解できたというところです。しかし、この言葉が適しているのか、類語を比較検討した上で再定義や言葉の言い換えを検討することになりました。

5 ページ目の理念についてのキーワード等は先に出ませんでした、今の捉え方については、抽象的な表現でとどめていると理解をいただけたというところです。今回あまり議論しきれなかった、引き続き議論いたします。

6ページの施策の体系は、今まで出てきた意見を踏まえて、特に観光振興に関しては、内容を含めて言葉が変わっていく可能性があるだろうことがありました。受け入れ環境の充実のようなどころでの企業の活動があるという話をいただきましたので、施策の体系を担っていくのは誰なのかというところを今後整理されていくと良いとなりました。

事務局 SWOT 分析や施策分野について、整合が取れていなかった言葉やふさわしくなかった言葉遣いの部分は次の委員会までに修正します。

キーワード整理と基本理念について、委員の皆様で他の考え方やキーワード追加等がありましたらご指摘いただければと思います。

委員 品質や変革等のキーワードは入れた方が良いと思います。あと関連して、ブランドもキーワードになるのではないかと思います。

委員 「誰もが快適に過ごせる」ということと「質への転換」というのは、深刻な矛盾があるように思います。ある程度どちらかを取りにいくなければ、あまり総花的になると伝わりにくくなるような気がします。

委員 品格という言葉の意見に対して、品とか品格というのは自ら言う言葉ではなく、他者が感じていただくには非常に有効な言葉だと感じております。

委員長 最後に今後のスケジュールをお願いいたします。

事務局 本日は鎌倉市観光基本計画推進委員会の令和6年度の第5回を本日開催させていただきました。計画骨子案の完成が今年度ゴールでございました。今いただいた意見を最後、我々事務局の方で精査及び修正をして、一旦骨子の案としてこちらをベースに来年度以降計画素案の作成となります。さらに夏場に向けての計画の中身の作り込みの方に進めてまいります。本日はこの目標についてお示ししましたが、方向性に関して変更を伴うようなご指摘がなかったため、ある程度ご了承いただけたという前提で作成いたします。

次年度の委員会は5月に第1回委員会開催日程を調整いたします。その他に第2回市民ワークショップを5月または6月付近に予定させていただいております。

次の市民ワークショップのテーマとしては、個別の取り組みの中に落とし込めるような情報として、具体的な取り組みやコンテンツについて意見をいただくようなワークショップを開催できるよう考えております。

～日程調整中～

事務局 委員長、司会進行ありがとうございました。それでは以上をもちまして、本日の観光基本計画推進委員会を閉会させていただきます。皆様方には長時間にわたりご活発な意見いただきまして、誠にありがとうございました。